

2022年3月期 第2四半期決算説明(電話会議) Q&A サマリー

Q: 国内の東北、春日井、四日市工場と海外のCKD中国工場の現在の状況

A: いずれの工場も高い稼働状況です。東北工場は、需要増加を受けて稼働が上がり、春日井工場の稼働は高い水準が続いております。空気圧機器を生産している四日市工場、CKD中国工場も高い稼働状況です。

Q: 部材調達の状況

A: 半導体関連や電子部品の需給が非常にタイトになってきております。一部の部材で多少苦勞している面もございますが、現状、生産に大きな影響はでておりません。部材調達が長納期化しておりますので、状況を確認しながら安定的な部材調達に努めるよう活動を継続してまいります。

Q: 機器 1Q対比 2Q利益 低下要因

A: 1Qと比べ、海外でコロナ影響により、一部で生産遅延があったこと、部材が断続的に入ってきたため生産性が多少悪化したこと、中国における収益認識に関する会計基準変更の影響があったため。

Q: 機器 空気圧機器 上期の動向

A: 空気圧機器の上期は、前期に比べて1Qが非常に高く、2Qも高い水準で推移いたしました。二次電池の生産設備で使用される空気圧機器などが前期から今期上期にかけて好調でした。

Q: 機器 空気圧機器 下期の見方

A: 製造業の自動化・省人化の需要は高く、引き続き安定した受注状況が続くとみておりますので、現時点で下期に大きく落ちることは想定しておりません。但し、納期対応などのリスク、中国市場で調整が入ることや春節の影響、電力不足なども織り込み、慎重に予想しております。

Q: 半導体設備投資の見通し

A: ロジックは、微細化投資が続いており、下期も引き続き堅調に推移するとみております。中国のデバイスメーカーもレガシーノードを中心に投資が継続するとみております。メモリーも、NAND、DRAMともに投資は継続するとみております。

Q: 設備投資計画 75億円から100億円に引き上げた背景

A: 半導体およびFAの自動化ニーズにより多くの受注を頂いており、安定生産できる体制を整えることと、今後の需要動向も考慮し、設備投資いたします。内容は、流体制御機器の増産対応および空気圧バルブの自動化設備の導入、現存のタイ工場に隣接する不動産取得です。